

理学療法評価・総合臨床実習 ワークブック

(令和_____年度入学)

*3年次と4年次で共通して使用します

学籍番号 ()

氏名 ()

このワークブックは、理学療法評価実習、総合臨床実習 I・II で使用します。実習指導者と共有するとともに、実習終了後は実習中の取り組みを把握するために提出していただくものです。実習期間中は、毎日実習施設に持参して記録してください。

目次

1. 学生紹介	2
2. 臨床実習ワークブックの手引き	3 - 5
(1) 目的と役割	3
(2) 理学療法経験チェックリスト運用マニュアル	3
(3) 疾患別経験チェックリスト運用マニュアル	5
(4) 課題シート	5
(5) 学生振り返り、指導者申し送り、教員指導シート	5
3. ワークの細目	6 - 18
(1) 水準紹介	6
(2) 理学療法経験チェックリスト	7 - 16
1. 検査測定項目	7 - 11
2. 治療技術項目	12 - 14
3. 臨床推論項目	15 - 16
(3) 疾患別経験チェックリスト	17 - 18
4. 理学療法評価実習	19 - 23
目標と施設名	19
(1) 課題シート	20 - 22
(2) 学生振り返り、指導者申し送り、教員指導シート	23
5. 理学療法総合臨床実習 I	24 - 28
目標と施設名	24
(1) 課題シート	25 - 27
(2) 学生振り返り、指導者申し送り、教員指導シート	28
6. 理学療法総合臨床実習 II	29 - 34
目標と施設名	29
(1) 課題シート	30 - 32
(2) 学生振り返り、指導者申し送り、教員指導シート	33

1. 学生紹介

理学療法評価実習・総合臨床実習学生個人資料

写真貼付 作成日前3月以内に撮 影した鮮明な写真 (正面向、脱帽) タテ 3.5 ~ 4.0 ヨコ 3.0 ~ 3.5
--

ふりがな
氏 名 _____ 学籍番号 _____

専 攻 理学療法学 性 別 (男・女)

E-mail アドレス _____

1. 自己紹介

2. 理学療法評価実習にむけた意気込み

3. 理学療法総合臨床実習 I・II にむけた意気込み

4. その他

2. 臨床実習ワークブックの手引き

(1) 目的と役割

[目的] : ワークブックの目的は、臨床実習における学生の学習サポートです。

[役割] :

- 学習の進捗状況を明確にすることで、指導に役立たせること。
- 経験した理学療法行為をチェックし、視覚化することで、経験内容をわかりやすくすること。
- 経験、指導内容を明確にし、自己研鑽に役立たせること。
- 学生の学習量を明確にすることで、課題や時間管理を容易にすること。

(2) 理学療法経験チェックリスト運用マニュアル

本運用マニュアルを参考に、学生と指導者が確認しながら、理学療法行為である理学療法経験チェックリストに、経験した数を「正」の字で記入していきます。余白がなくなりましたら、それ以上の記入は不要です。なお、理学療法経験チェックリストは、以下の3つの経験項目シートで構成されています。

1. 検査測定技術項目
2. 治療技術項目
3. 臨床推論項目

今回のバージョンで、新たに臨床推論項目を追加しました。経験の段階は「見学」、「共同参加」、「実施」の3段階に分かれています。既存の検査測定技術項目や治療技術項目の経験においても、臨床推論は必要で、特に「実施」の段階では、臨床推論が伴わなければ経験を積むことは困難です。

しかし、検査測定技術項目や治療技術項目の経験に臨床推論が伴っているかどうかの判断は難しく、多くの場合、学生の推論プロセスを文章化することで確認されることが行われます。学生は実際の理学療法における推論プロセス文章化の経験がなく、多くの場合多大な時間を要します。さらに、文章化は一人で取り組む時間が長いため、見学や共同参加といった経験を段階的に積むことが難しくなります。そのため、可能な限り教示やディスカッションを通じた段階的な臨床推論の経験が望ましいと考えております。

なお、学生が臨床実習の間に様々な経験を独力で達成できるようになることは望ましいですが、必須ではありません。本ワークブックは、臨床実習期間外の振り返り学習も念頭に置き、経験学習のツールとして活用されることを目的としています。

理学療法経験チェックリストの記載方法

チェックリストの各項目について、以下に示す基準を参考に経験した回数を正の字で記録します。記載欄が埋まるなど、十分な経験が確認できた項目については、それ以上の記録は不要です。

- 「1. 検査測定技術項目」「2. 治療技術項目」「3. 臨床推論項目」について
 - 経験の段階（見学・共同参加・実施）別に経験した回数をカウントする。
 - 同一対象者に対する複数の経験は、複数回カウントする。
- 「4. 疾患別経験チェックリスト」について
 - すべての経験の段階（見学も含む）において経験した回数をカウントする。
 - 複数の疾患を重複している対象者に対する経験は、すべての疾患の経験としてカウントしてください。

経験の段階（見学・共同参加・実施）について

• 見学

指導者が学習を目的として意図的に見学を指示し、その後に指導者から理学療法実践において大切となる視点や評価、介入等の説明（以下、フィードバック）を伴ったものとします。そのため、見ただけでは見学に該当しません。なお、フィードバックは、直後でも、その日の最後でも構いません。また、学生の自己研鑽による見学を妨げるものではありません。学生は積極的に見学を行い、自己研鑽につなげてください。ただし、本箇所のチェックの対象とはなりません。

• 共同参加

臨床実習指導者が直前に実施した経験項目の一部の役割を学生に任せるなどの方法で、学生に共同参加の経験をさせてください。その際、共同参加に必要な知識や具体的な方法のご指導をお願いいたします。

• 実施

臨床実習指導者の監視下のもとで経験項目を実施させてください。また、記録方法等もご指導ください。学生が実施した際の問題点もご指導お願いいたします。

オプションについて

「(2) 理学療法経験チェックリスト」の各項目に「*オプション」を設けています。どの項目にも該当しない事項（筋電図評価、喀痰吸引、予防プログラムの立案など）を経験した場合には、必要に応じて本項目を活用してください。

各項目で、次のような点に配慮して経験させて下さい

「1. 検査測定技術項目」の経験内容

- 学生の能力と、日本理学療法士協会による「臨床実習において学生が実施可能な基本技術の水準」を参考に、各検査項目で経験させていただく項目や見学、共同参加、実施の経験の段階を判断してください。
- 各検査測定項目における具体的なリスクを説明し、学生が十分に理解しているかを確認したうえで経験させて下さい。
- 指導者が対象者に検査測定（情報収集や情報の管理も含む）を行っているところを実際に必ず見せてから、その意義や具体的な方法をご教示ください。
- 検査測定の目的や評価の判断基準（もしくは判断するプロセス）など、治療計画立案に至る指導者の思考プロセスや実践内容を、学生が理解できるようにご教示ください。
- 対象者の方のリスク管理を最優先し、そのうえで学生の能力に合わせて、可能な範囲で検査測定の経験を積ませてください。

「2. 治療技術項目」の経験内容

- 学生の能力と、日本理学療法士協会による「臨床実習において学生が実施可能な基本技術の水準」を参考に、各理学療法治療技術項目で経験させていただく項目や、見学、共同参加、実施と経験の段階を判断してください。
- 各理学療法治療技術項目における具体的なリスクを説明し、学生が十分に理解しているかを確認したうえで経験させて下さい。
- 指導者が対象者に理学療法治療技術（物理療法や装具指導も含む）を行っているところを実際に必ず見せてから、その意義や具体的な方法をご教示ください。
- 理学療法治療の目的など、目標設定に到達するための理学療法治療プログラムに至った指導者の思考プロセスや臨床上の具体的な実践方法、工夫等も合わせてご教示ください。

- ・対象者の方のリスク管理を最優先し、そのうえで学生の能力に合わせて、可能な範囲で理学療法治療に参加させてください。

「3. 臨床推論項目」の経験内容

- ・臨床推論の経験は、指導者の臨床推論の教示を見学、指導者の指導の下で学生が部分的に臨床推論を考える経験を共同参加、学生が主体となって臨床推論を考える経験を実施とします。
- ・学生の能力を確認しながら、経験させていただく項目や見学、共同参加、実施の経験の段階を判断してください。共同参加、実施を経験した項目についても、積極的に見学（教示）を経験させてください。
- ・臨床推論の共同参加、実施の確認は、可能な限り口頭のディスカッションで行ってください。
- ・臨床推論を文章で確認する際は、学生が文章作成に多大な時間を要することをご理解いただくとともに、文章作成に関しても見学（教示）を通して学生の能力を確認してください。
- ・学生の能力を超えた経験段階への参加は、学生に多大なストレスを招いてしまいます。

(3) 疾患別経験チェックリスト運用マニュアル

疾患別経験チェックリストの記載方法

- ・すべての経験の段階（見学も含む）において経験した回数をカウントする。
- ・複数の疾患を有している対象者に対する経験は、すべての疾患の経験としてカウントして下さい。

(4) 課題シート

評価実習では3つ、総合臨床実習ではそれぞれ3つの課題シートをつけています。本課題シートを利用して自己学習課題をだしてください。

課題を出す際は、「課題内容」と「提出期限」をこの課題シートに書き込み、それを学生指導者双方で確認できるようにしてください。なお、自己学習課題を出さない場合は、本シートは白紙のままで構いません。本シート以外のレポート課題はご遠慮ください。

課題シートは、課題内容を開示することで、振り返りを促し、その量を調整することで効率よく学習を促そうとするものであり、決して、学生の自己研鑽の機会を奪うものではありません。学生にはポートフォリオの作成を指導していますので、必要に応じて学生には自己研鑽を促す指導を行なってください。

(5) 学生振り返り、指導者申し送り、教員指導シート

学生振り返りは実習終了1週間前に学生自らが記載して下さい。指導者申し送りは次の実習の指導者もしくは大学の教員へ申し送る内容を指導者の先生に記載をお願いいたします。教員指導は大学の教員が記載いたします。

3. ワークの細目

(1) 水準紹介

臨床実習において学生が実施可能な基本技術の水準

項目	水準Ⅰ 指導者の直接監視下で学生により実施されるべき項目	水準Ⅱ 指導者の補助として実施されるべき項目および状態	水準Ⅲ 見学にとどめておくべき項目および状態
教育目標	臨床実習で修得し対象者に実践できる ただし、対象者の状態としては、全身状態が安定し、学生が行う上でリスクが低い状態であること	模擬患者、もしくは、シミュレーター教育で技術を修得し、指導者の補助として実施または介助できる	模擬患者、もしくは、シミュレーター教育で技術を修得し、医師・看護師・臨床実習指導者の実施を見学する
動作介助(誘導補助)技術	基本動作・移動動作・移送介助・体位変換	急性期やリスクを伴う状態の水準Ⅰの項目	
リスク管理技術	スタンダードプリコーション(感染に対する標準予防策)、症状・病態の観察、バイタルサインの測定、意識レベルの評価、各種モニターの使用(心電図、パルスオキシメータ、筋電図)、褥瘡の予防、転倒予防、酸素吸入療法中の患者の状態観察	創部管理、廃用性症候群予防、酸素ボンベの操作、ドレーン・カテーテル留置中の患者の状態観察、生命維持装置装着中の患者の状態観察、点滴静脈内注射・中心静脈栄養中・経管栄養中の患者の状態観察	
理学療法評価技術(検査・測定技術)	情報収集、診療録記載(学生が行った内容)、臨床推論	診療録記載(指導者が行った内容)	
	問診、視診、触診、聴診、形態測定、感覚検査、反射検査、筋緊張検査、関節可動域検査、筋力検査、協調運動機能検査、高次神経機能検査、脳神経検査、姿勢観察・基本動作能力・移動動作能力・作業工程分析(運動学的分析含む)、バランス検査、日常生活活動評価、手段的日常生活活動評価、疼痛、整形外科的テスト、脳卒中運動機能検査、脊髄損傷の評価、神経・筋疾患の評価(Hoehn & Yahr の重症度分類など)、活動性・運動耐容能検査、各種発達検査	急性期やリスクを伴う状態の水準Ⅰの項目 生理・運動機能検査の援助:心肺運動負荷試験、12誘導心電図、スパイロメーター、超音波、表面筋電図を用いた検査、動作解析装置、重心動揺計	障害像・プログラム・予後の対象者・家族への説明、精神・心理検査
理学療法治療技術	関節可動域運動、筋力増強運動、全身持久運動、運動学習、バランス練習、基本動作練習、移動動作練習(歩行動作、応用歩行動作、階段昇降、プール練習を含む)、日常生活活動練習、手段的日常生活活動練習	急性期やリスクを伴う状態の水準Ⅰの項目 治療体操、離床練習、発達を促通する手技、排痰法、	喀痰吸引、人工呼吸器の操作、生活指導、患者教育
運動療法技術			
物理療法技術	ホットパック療法、パラフィン療法、アイスバック療法、渦流浴療法(褥瘡・創傷治療を除く)、低出力レーザー光線療法、EMGバイオフィードバック療法	超音波療法、電気刺激療法(褥瘡・創傷治療、がん治療を除く)、近赤外線療法、紫外線療法、脊椎牽引療法、CPM:持続的他動運動、マッサージ療法、極超短波療法・超短波療法(電磁両立性に留意)、骨髄抑制中の電気刺激療法(TENSなど)	褥瘡・創傷治療に用いて感染のリスクがある場合の治療:水治療法(渦流浴)、電気刺激療法(直流微弱電流、高電圧パルス電気刺激)、近赤外線療法、パルス超音波療法、非温熱パルス電磁波療法、がん治療:がん性疼痛・がん治療有害事象等に対する電気刺激療法(TENS:経皮的電気刺激)
義肢・装具・福祉用具・環境整備技術	義肢・装具(長・短下肢装具、SHBなど)・福祉用具(車いす、歩行補助具、姿勢保持具を含め)の使用と使用方法の指導	リスクを伴う状態の水準Ⅰの項目 義肢・装具(長・短下肢装具、SHBなど)・福祉用具(車椅子、歩行補助具、姿勢保持装具を含め)の調節	義肢・装具・福祉用具の選定、住環境改善指導、家族教育・支援
救命救急処置 技術			救急法、気道確保、人工呼吸、閉鎖式心マッサージ、除細動、止血
地域・産業・学校保健技術		介護予防、訪問理学療法、通所・入所リハビリテーション	産業理学療法(腰痛予防など) 学校保健(姿勢指導・発達支援など)

(公社)日本理学療法士協会

(2) 理学療法経験チェックリスト

1. 検査測定技術項目

情報収集	見 学	共同参加	実 施
医学的情報			
社会的情報			

全身状態	見 学	共同参加	実 施
脈拍測定			
血圧測定			

意識精神状態	見 学	共同参加	実 施
意識・覚醒状態の評価			
知能・精神状態の評価			

反射検査	見 学	共同参加	実 施
深部反射			
病的反射			
表在反射			

筋トーンス検査	見 学	共同参加	実 施
上肢			
下肢			
体幹			

形態測定	見 学	共同参加	実 施
上肢長			
下肢長			
上肢周径			
下肢周径			

関節可動域検査	見 学	共同参加	実 施
肩甲帯・肩関節			
肘関節・前腕			
手関節			
股関節			
膝関節			
足関節			
頸部・体幹			

片麻痺機能検査	見 学	共同参加	実 施
Brunnstrom stage			

運動協調性検査	見 学	共同参加	実 施
Foot pat			

徒手筋力検査	見 学	共同参加	実 施
肩甲帯・肩関節			
肘関節・前腕			
手関節			
股関節			
膝関節			
足関節			
頸部・体幹			

バランス検査	見 学	共同参加	実 施
静的または動的座位			
静的または動的立位			

疼痛検査	見 学	共同参加	実 施
安静時痛			

動作分析	見 学	共同参加	実 施
寝返り			
起き上がり			
立ち上がり			
移乗動作			
歩行			
応用歩行 (階段昇降など)			

日常生活活動評価	見 学	共同参加	実 施
FIM			
Barthel Index			

発達検査	見 学	共同参加	実 施
遠城寺式乳幼児分析的 発達検査法			
日本版デンバー式発達 スクリーニング検査			
GMFCS			
PEDI			
WeeFIM			

* オプション (様々な経験があると思いますので、本箇所をご活用ください)

例：筋電図評価 etc	見 学	共同参加	実 施

2. 治療技術項目

物理療法	見 学	共同参加	実 施

関節可動域運動	見 学	共同参加	実 施
肩甲帯・肩関節			
肘関節・前腕			
手関節			
股関節			
膝関節			
足関節			
頸部・体幹			

筋力増強運動	見 学	共同参加	実 施
肩甲帯・肩関節			
肘関節・前腕			
手関節			
股関節			
膝関節			

足関節			
頸部・体幹			

持久力運動	見学	共同参加	実施

バランストレーニング	見学	共同参加	実施

動作トレーニング	見学	共同参加	実施
寝返り			
起き上がり			
椅子からの立ち上がり			
床からの立ち上がり			
座位			
移乗動作			
歩行			
応用歩行			

ベッドサイド	見 学	共同参加	実 施
リスク管理			

義肢装具	見 学	共同参加	実 施
義肢/装具の装着			

* オプション (様々な経験があると思いますので、本箇所をご活用ください)

例：喀痰吸引 etc	見 学	共同参加	実 施

3. 臨床推論項目

問題点抽出	見 学	共同参加	実 施
機能障害の推論			
活動制限・参加制約の推論			
ICFにおける問題点相互関係の推論			
情報収集からの推論			
検査結果からの推論			
動作分析からの推論			

* 重複するような推論はいずれにも経験を加えてください。

理学療法の立案	見 学	共同参加	実 施
関節可動域運動			
筋力増強運動			
全身持久運動			
運動学習の考慮			
バランス練習			
基本動作練習			
移動動作練習 (歩行含む)			
日常生活活動練習			

物理療法の立案	見 学	共同参加	実 施
ホットパック療法			

ニーズと目標設定	見 学	共同参加	実 施
ニーズの把握			
短期目標の設定			
長期目標の設定			

* オプション（様々な経験があると思いますので、本箇所をご活用ください）

例：予防プログラムの立案 etc	見 学	共同参加	実 施

(3) 疾患別経験チェックリスト

*見学も含め、経験した疾患の回数をチェックしてください。*同一対象者は1回分

(1) 中枢神経疾患

脳血管障害 ()

パーキンソン病 ()

運動失調症 ()

その他「 」 ()

その他「 」 ()

その他「 」 ()

その他「 」 ()

(2) 整形外科疾患

骨折 ()

変形性関節症 ()

関節リウマチ ()

腰痛症 ()

靭帯損傷 ()

脊髄損傷 ()

その他「 」 ()

(3) 呼吸器疾患

- 慢性閉塞性肺疾患 ()
- 間質性肺炎 ()
- その他「 」 ()

(4) 循環器疾患

- 心不全 ()
- 心筋梗塞 ()
- その他「 」 ()

(5) その他

- 脳性麻痺 ()
- 代謝性疾患 ()
- がん ()
- 廃用症候群 ()
- その他「 」 ()

4. 理学療法評価実習

目標

自己達成度評価 %

施設名

(1) 課題シート (理学療法評価実習-1)

課題内容： _____

提出期限：

(1) 課題シート (理学療法評価実習-2)

課題内容： _____

提出期限：

(1) 課題シート (理学療法評価実習-3)

課題内容： _____

提出期限：

(2) 学生振り返り・指導者申し送り・教員指導シート（理学療法評価実習）

1. 学生振り返り

2. 指導者申し送り

3. 教員指導

5. 理学療法総合臨床実習 I

目標

自己達成度評価 %

施設名

(1) 課題シート (理学療法総合臨床実習 I -1)

課題内容： _____

提出期限：

(1) 課題シート (理学療法総合臨床実習 I -2)

課題内容： _____

提出期限：

(1) 課題シート (理学療法総合臨床実習 I -3)

課題内容： _____

提出期限：

(2) 学生振り返り・指導者申し送り・教員指導シート (理学療法総合臨床実習 I)

1. 学生振り返り

2. 指導者申し送り

3. 教員指導

6. 理学療法総合臨床実習 II

目標

自己達成度評価 %

施設名

(1) 課題シート (理学療法総合臨床実習Ⅱ-1)

課題内容： _____

提出期限：

(1) 課題シート (理学療法総合臨床実習Ⅱ-2)

課題内容： _____

提出期限：

(1) 課題シート (理学療法総合臨床実習Ⅱ-3)

課題内容： _____

提出期限：

(2) 学生振り返り・指導者申し送り・教員指導シート (理学療法総合臨床実習Ⅱ)

1. 学生振り返り

2. 指導者申し送り

3. 教員指導